

# 松原地区防災計画

[令和3年修正]

松原地区

**【松原地区防災計画作成団体】****(順不同)**

<b>松原1丁目町会</b>	<b>松原小学校</b>
<b>松原2丁目町会</b>	<b>松原小学校 PTA</b>
<b>松原三・四丁目自治会</b>	<b>梅丘中学校</b>
<b>松原5・6丁目自治会</b>	<b>梅丘中学校 PTA</b>
<b>松原地区民生委員・児童委員協議会</b>	<b>都立光明学園</b>
<b>松原地区社会福祉協議会</b>	<b>日本学園中学校・高等学校</b>
<b>赤十字奉仕団松原分団</b>	<b>日本女子体育大学附属二階堂高等学校</b>
<b>世田谷消防団第十分団</b>	
<b>明大前商店街振興組合</b>	
<b>下高井戸商店街振興組合</b>	
<b>東松原商店街振興組合</b>	

# 目次

1 松原地区の特性	松原-1(-300-)
(1) 自然特性	松原-1(-300-)
(2) 社会特性	松原-2(-301-)
(3) 地域危険度	松原-4(-303-)
(4) 被害想定	松原-5(-304-)
(5) 防災資源一覧	松原-8(-307-)
(6) 防災資源マップ	松原-9(-308-)
2 各団体の防災活動～現在の取組状況～	松原-10(-309-)
3 松原地区の課題と取り組み	松原-15(-314-)
(1) 住民の安否確認	松原-15(-314-)
(2) 避難行動要支援者支援	松原-15(-314-)
(3) 負傷者等の救出・救護	松原-16(-315-)
(4) 初期消火	松原-16(-315-)
(5) 帰宅困難者対策	松原-17(-316-)
(6) 他団体との連携	松原-17(-316-)
(7) 避難物資の確保	松原-17(-316-)

# 1 松原地区の特性

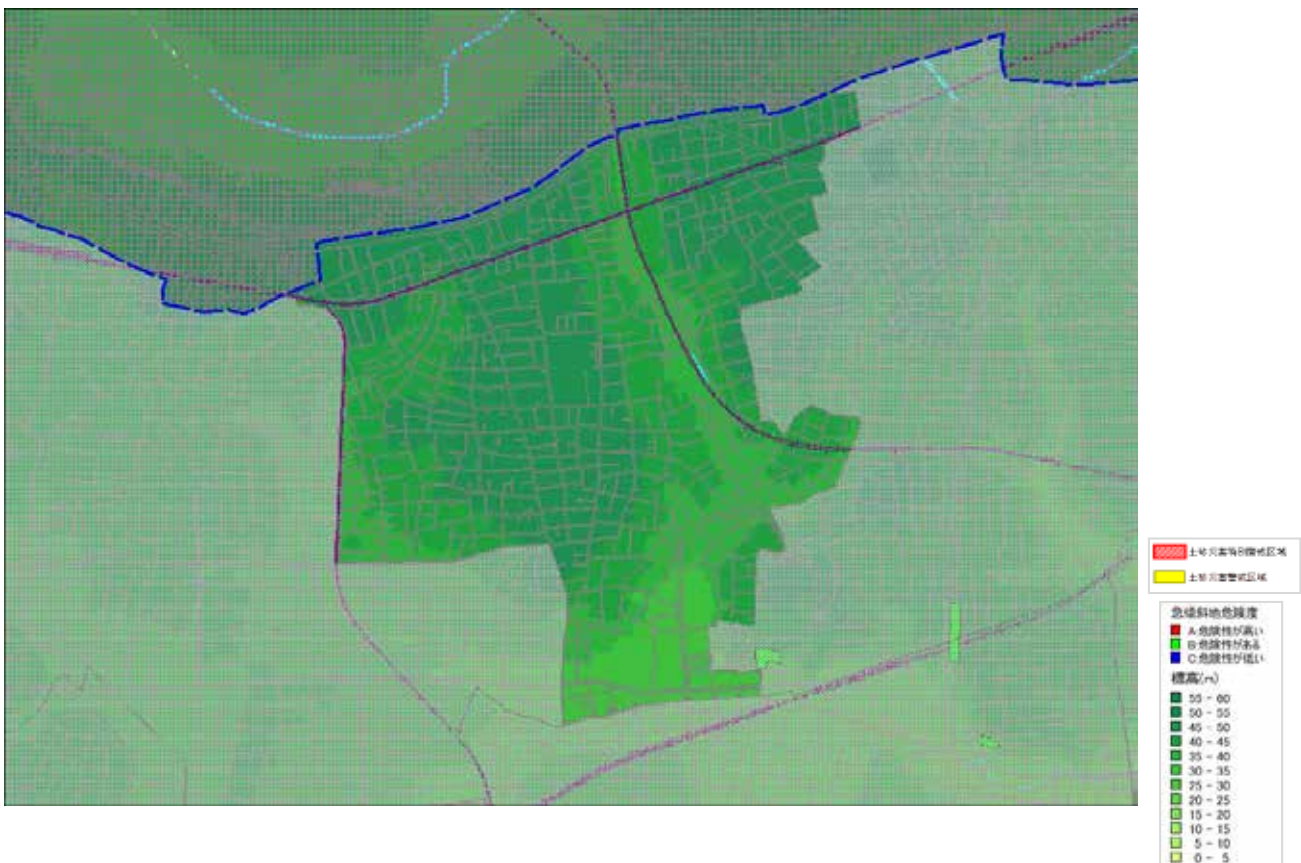
## (1)自然特性

面積	1.50 Km <sup>2</sup>	最高標高	49.7 m	最低標高	31.0 m
----	----------------------	------	--------	------	--------

### 位置



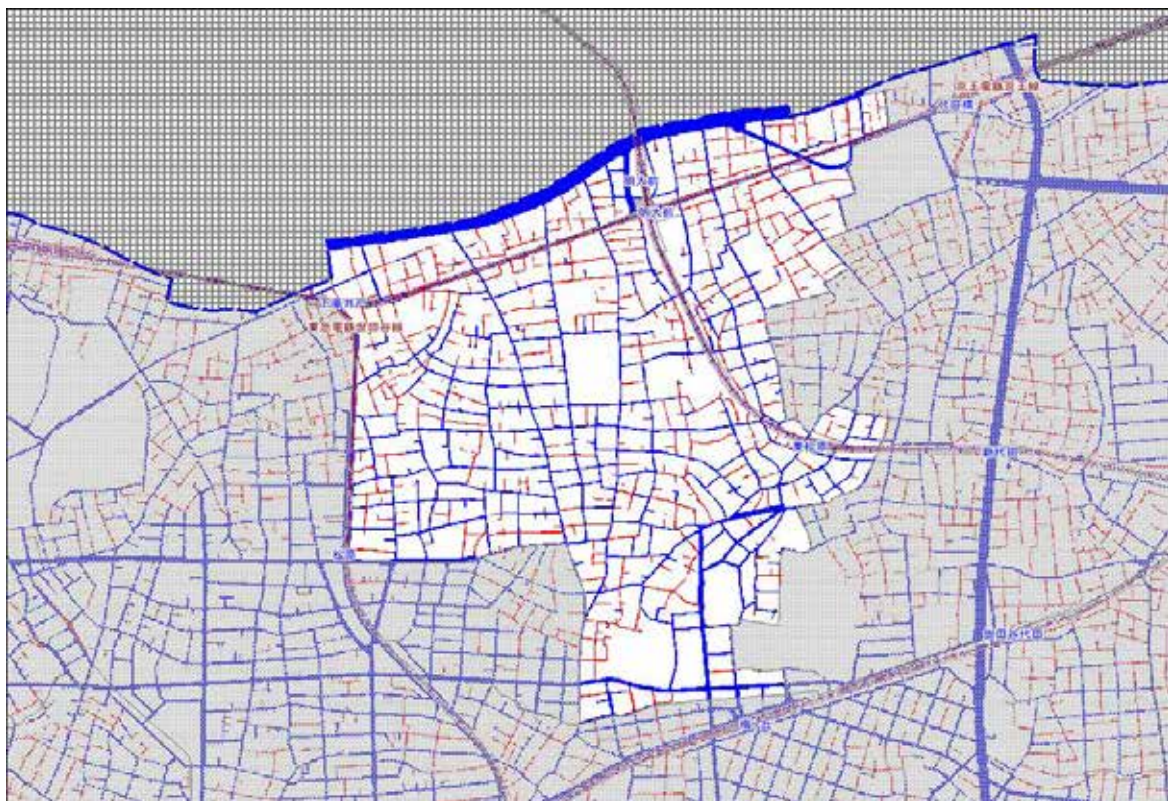
### 標高・急傾斜地・土砂災害危険箇所



## (2)社会特性

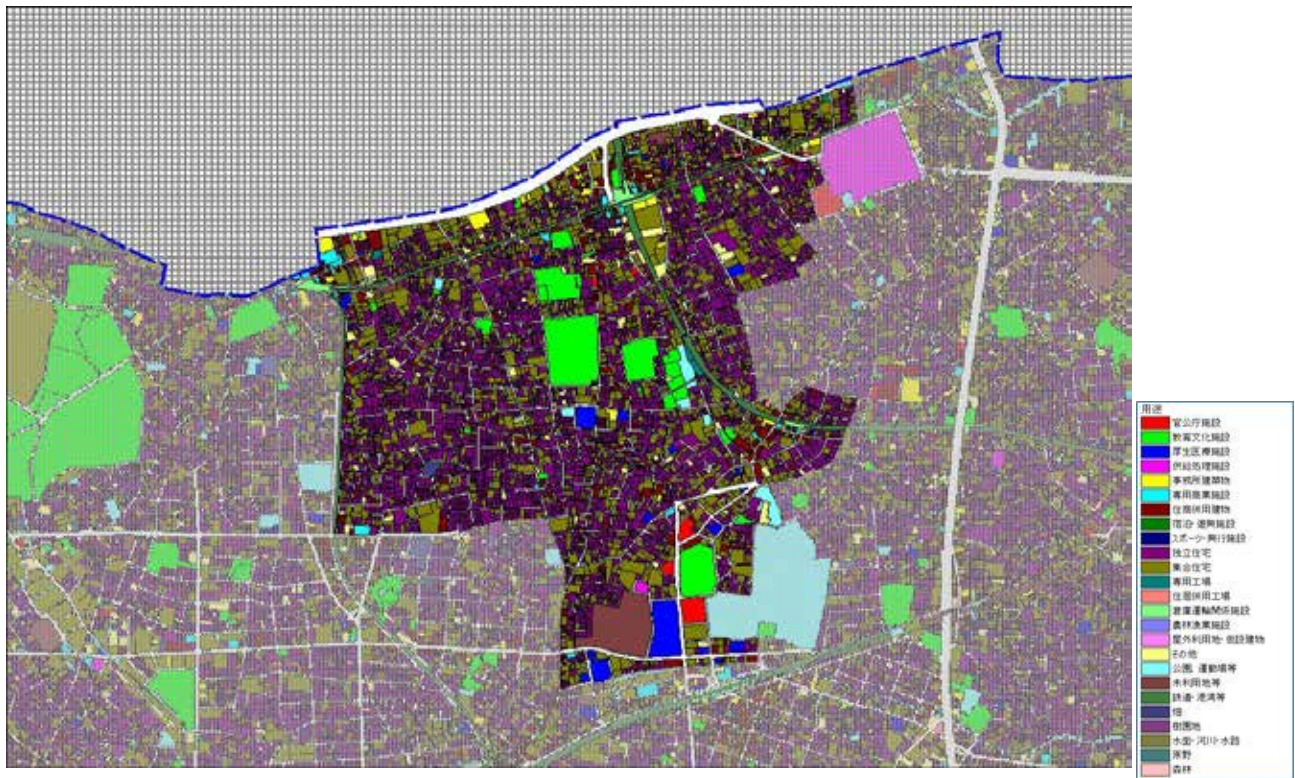
人口	29,632 人	細街路率	44.7 %	
世帯数	17,804 世帯	昭和56年以前木造建物棟数密度	68.6 棟/Km <sup>2</sup>	
1世帯あたり	1.66 人	耐火率(建築面積ベース)	58.4 %	
若年層数(15才未満)	2,573 人	土地利用(宅地)	74.4 %	
若年層率(15才未満)	8.7 %	土地利用(宅地以外)	25.6 %	
高齢者数(65才以上)	5,706 人	鉄道駅	京王線明大前駅 京王井の頭線明大前駅 東松原駅 東急世田谷線松原駅 下高井戸駅 京王線下高井戸駅	
高齢者率(65才以上)	19.3 %			
昼間の人口	26,395 人	産業	商業	81.4 %
夜間の人口	29,382 人		工業	16.5 %
昼夜間人口比	0.90 -		農業	2.2 %
町会・自治会数	4 -			

### 道路・公共交通機関



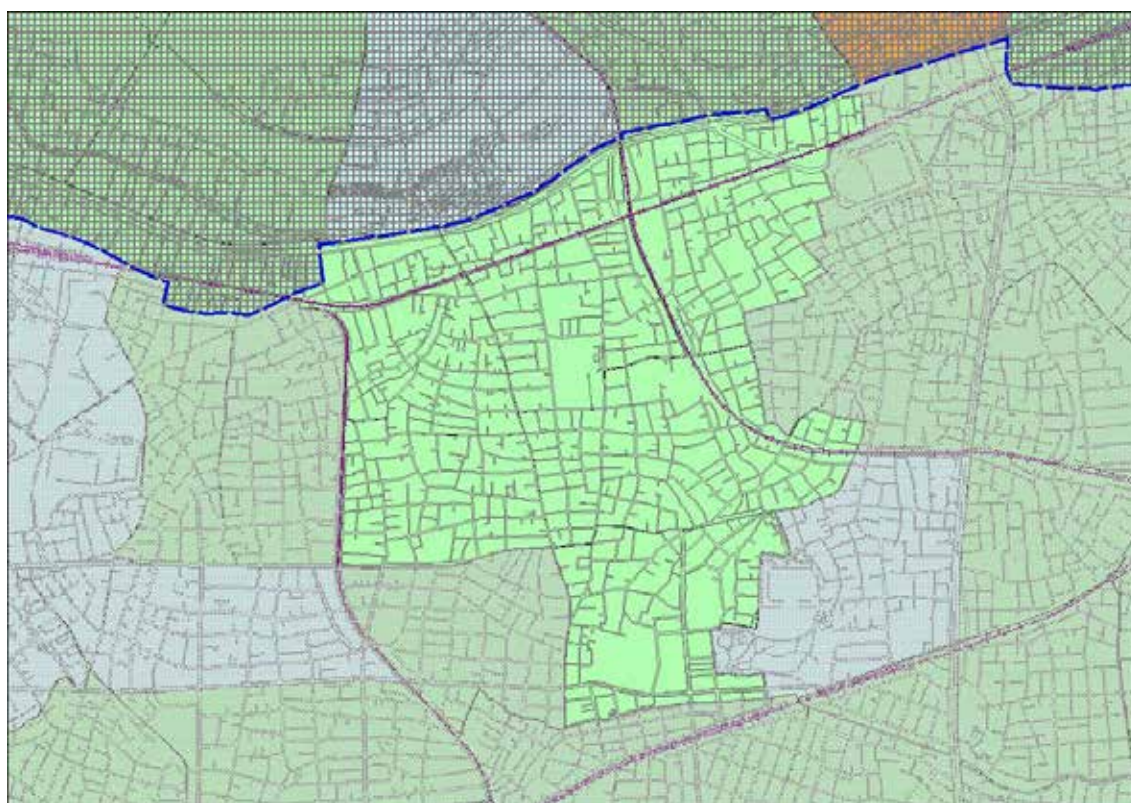
## (2)社会特性

### 産業

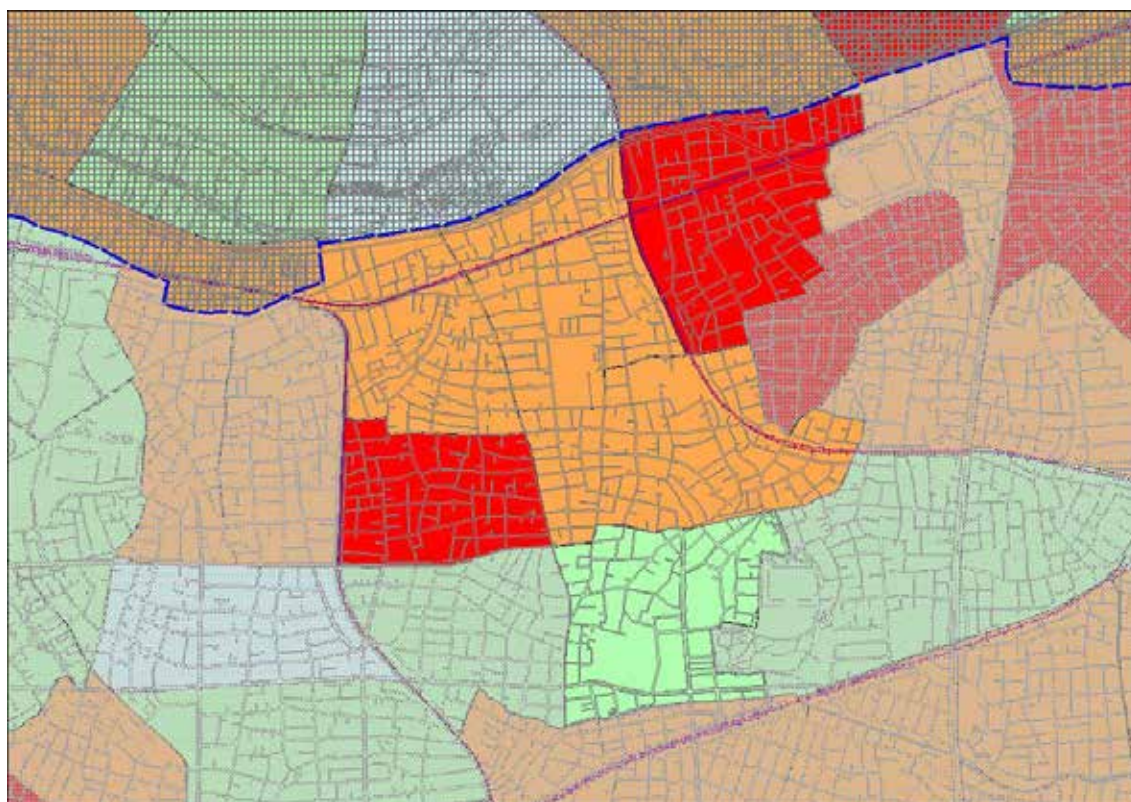


### (3)地域危険度

#### 建物倒壊危険度



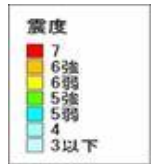
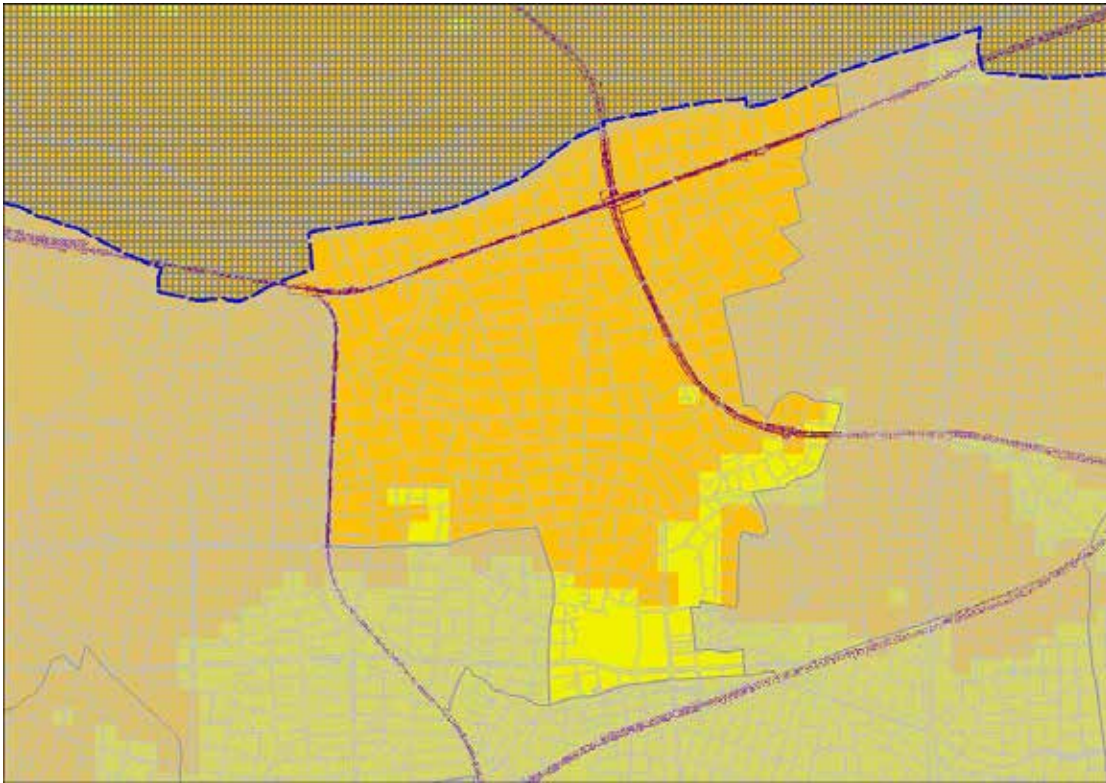
#### 火災危険度



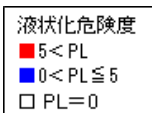
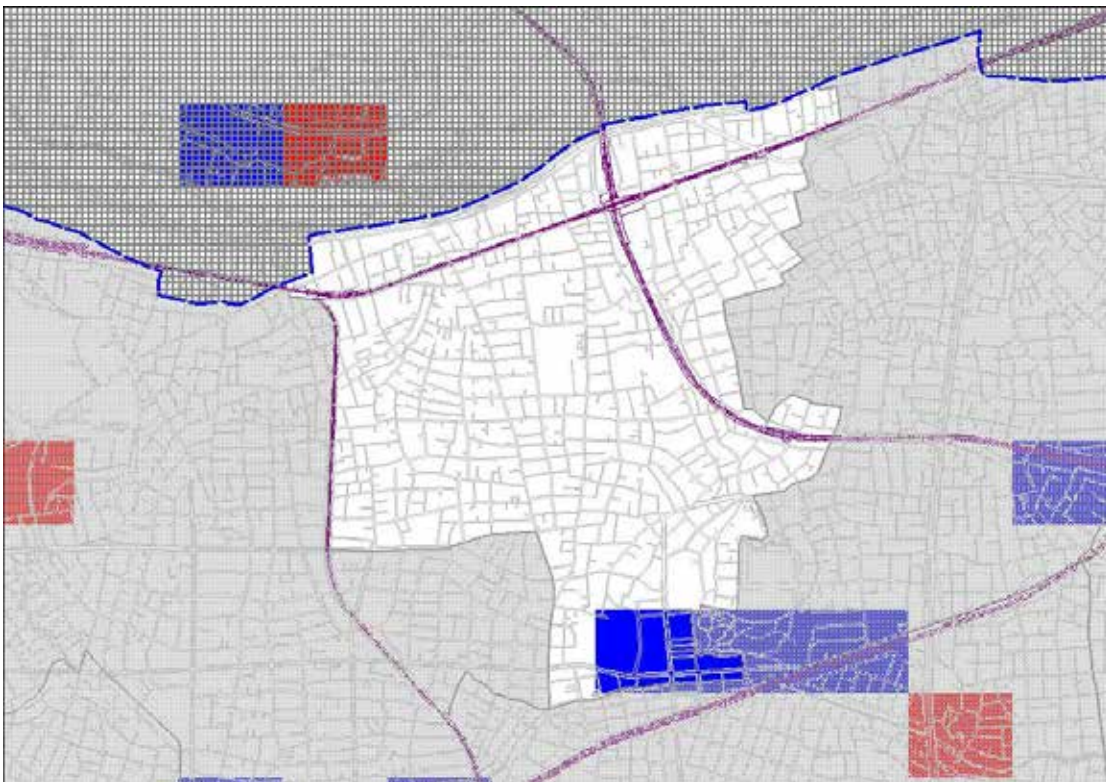
#### (4)被害想定

全壊棟数	305 棟	死者	37 人
半壊棟数	732 棟	負傷者	425 人
全焼棟数(倒壊建物含まず)	1,553 棟	うち重傷者	78 人

#### 震度分布

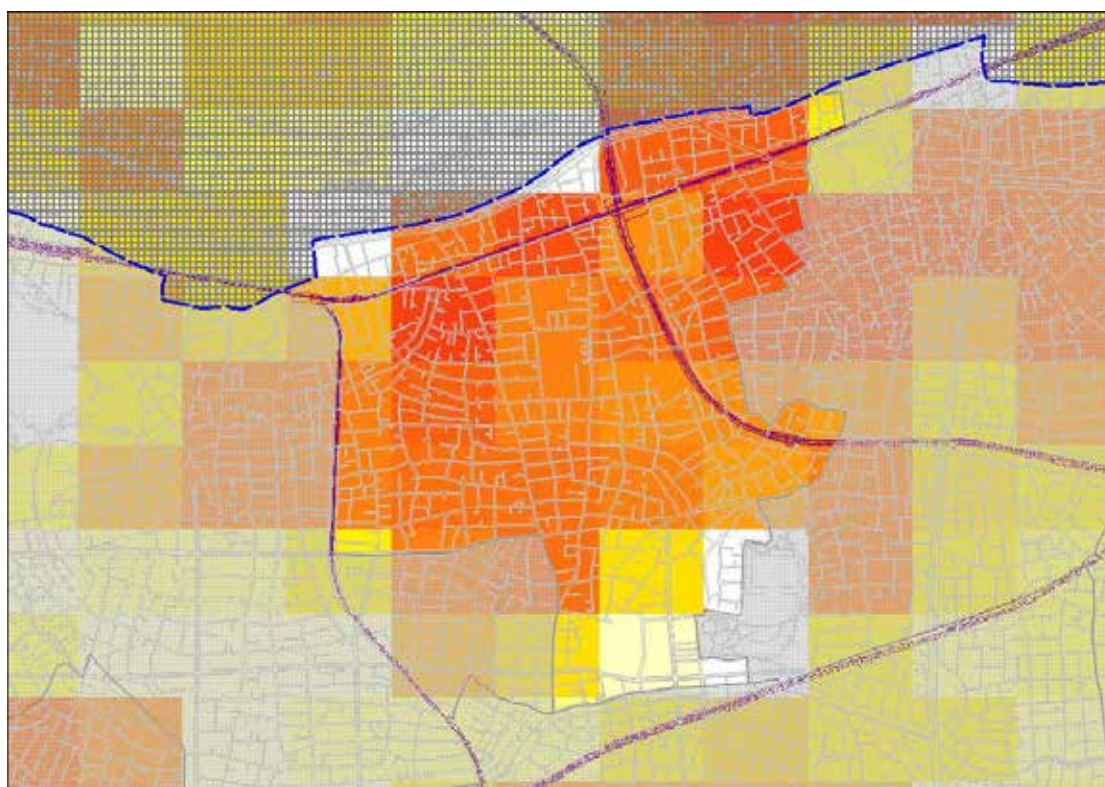


#### 液状化分布



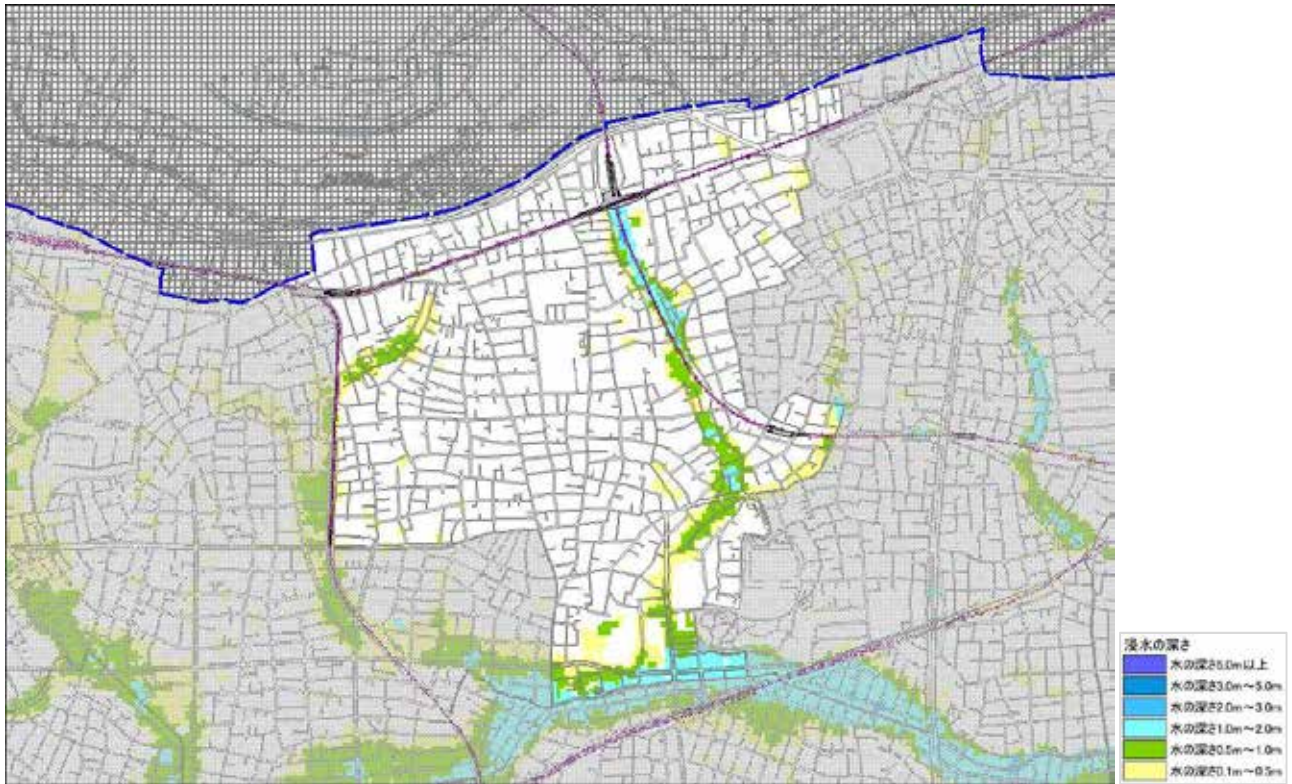
# (4)被害想定

## 被害棟数分布

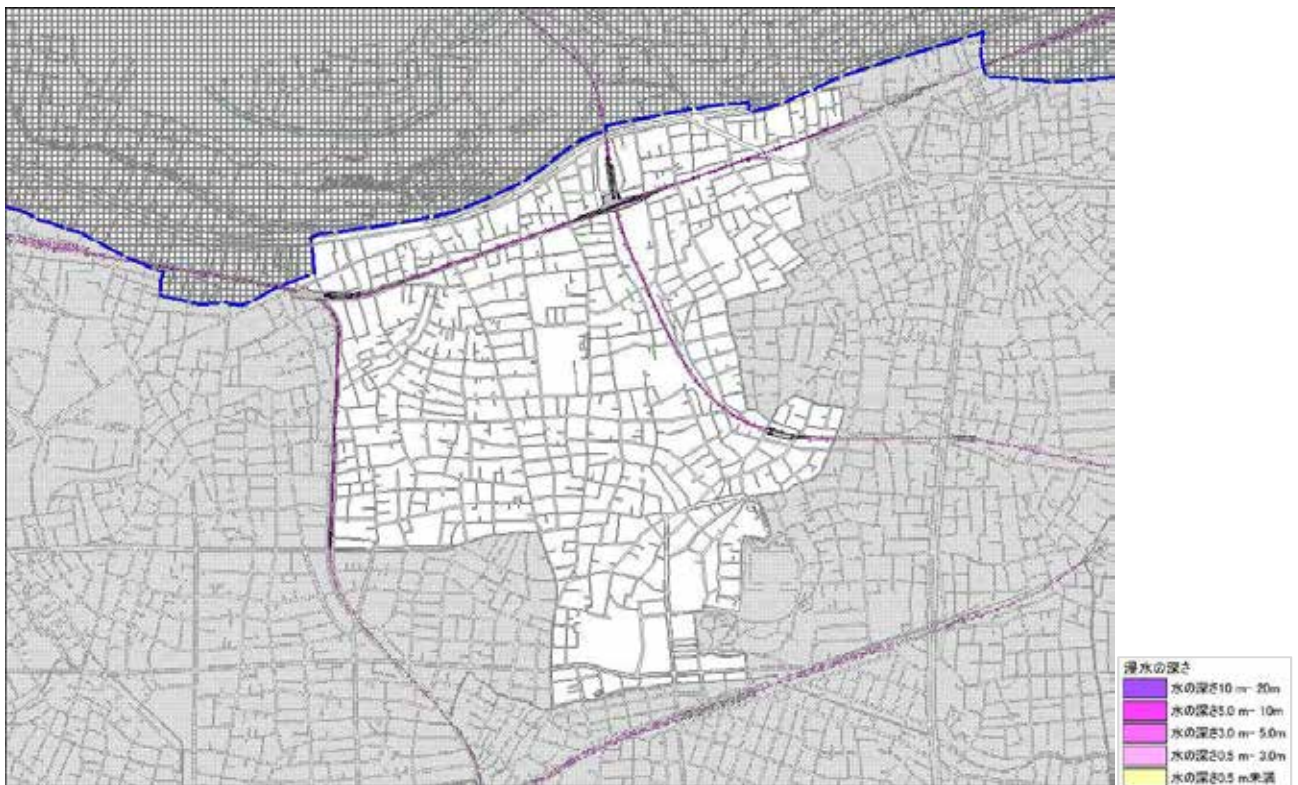


## (4) 被害想定

### 浸水想定（内水氾濫・中小河川洪水版）



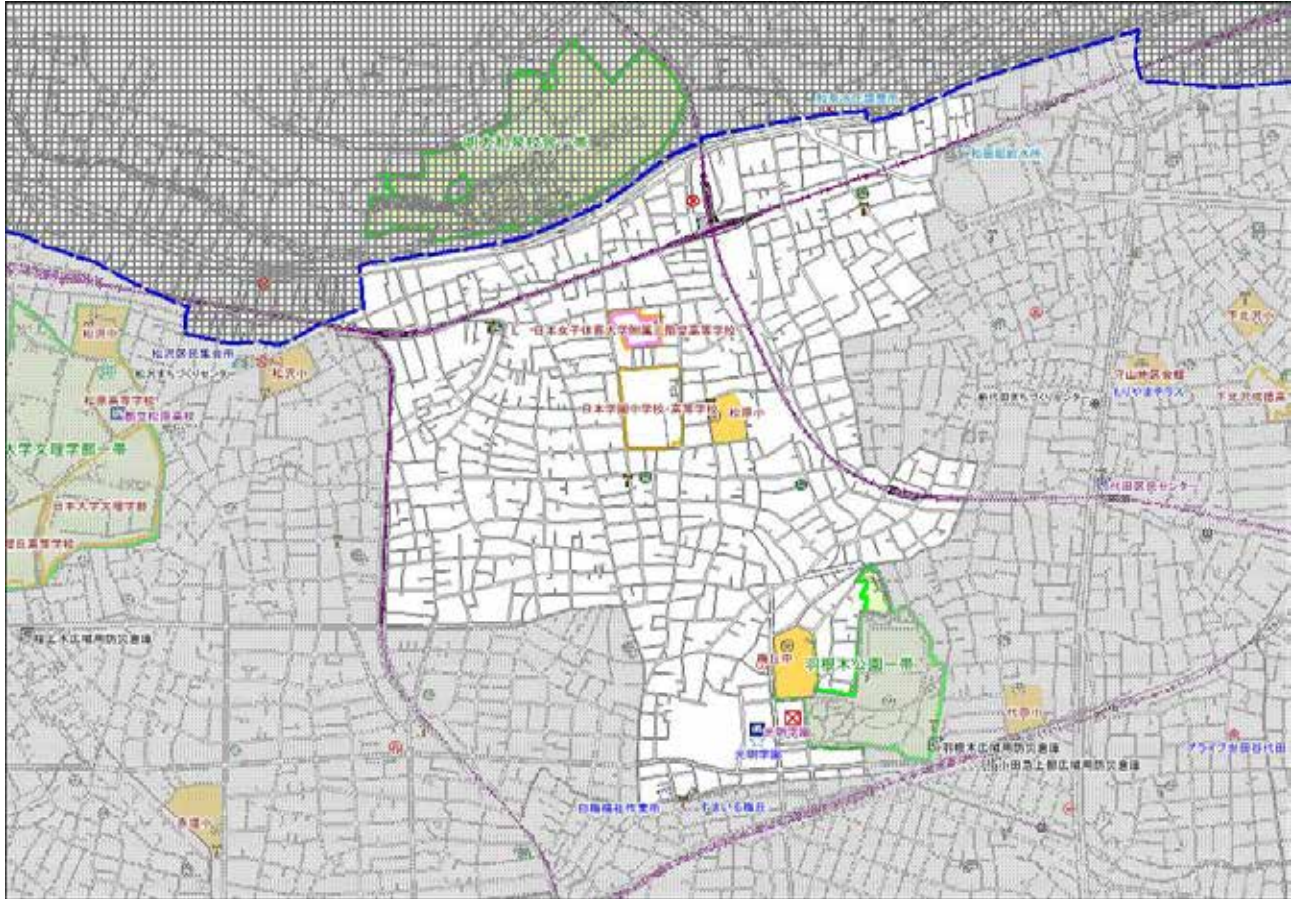
### 浸水想定（多摩川洪水版）



## (5)防災資源一覧

広域避難場所	羽根木公園一帯(松原5(一部).6丁目) 日本大学文理学部一帯(松原3.4丁目) 明大泉校舎一帯(松原1.2.5(一部)丁目)				
一時集合所	和田堀給水所前路上 松原つみき公園 松原小学校 日本学園中学校・高等学校 日本女子体育大学附属二階堂高等学校 松原公園 赤松ぼっくり庭園緑地 弁天児童遊園 赤羽根公園 梅丘中学校				
指定避難所	梅丘中学校(松原5(一部).6丁目) 松原小学校(松原1.2.5(一部)丁目) 松沢小学校(松原3.4丁目)				
予備避難所	日本女子体育大学附属二階堂高等学校 日本学園中学校・高等学校				
母子避難所	日本女子体育大学附属二階堂高等学校				
福祉避難所(高齢者)	介護老人保健施設 梅ヶ丘(東京リハビリテーションセンター世田谷内)				
福祉避難所(障害者)	都立光明学園 白梅福祉作業所 東京リハビリテーションセンター世田谷障害者支援施設梅ヶ丘				
水害時避難所(第1次)		野川・仙川洪水時避難所			
水害時避難所(第2次)					
医療救護所					
東京都災害拠点病院					
東京都災害拠点連携病院					
緊急医療救護所					
一時滞在施設					
帰宅支援ステーション	都立光明学園(梅ヶ丘駅、赤堤通り) 都立永福学園(明大前駅、甲州街道)	帰宅困難者支援施設			ヶ所
ボランティアマッチングセンター					
マンホールトイレ	2 ヶ所	防災無線塔	5 ヶ所	緑地	ヶ所
輸送拠点					
給水拠点	和田堀給水所 和泉水圧調整所				
広域用防災倉庫					
土のうステーション					
警察署・交番	北沢警察署 明大前駅前交番				
消防署・出張所	松原出張所				

## (6)防災資源マップ



○ 総合支所	■ 広域避難場所
● まちづくりセンター	■ 指定避難所
⊗ セタがや災害ボランティアセンター	■ 予備避難所
⊞ 広域防災倉庫	■ 母子避難所
● 給水拠点	★ 福祉避難所(高齢者)
⌂ 防災無線塔	☆ 福祉避難所(障害者)
⊙ マンホールトイレ	⊠ 水害時避難所(第1次)
■ 土のうステーション	⊡ 水害時避難所(第2次)
⊠ 警察署	◆ 野川・仙川洪水時避難所
⊕ 交番	⊞ 医療救護所
⊞ 消防署	⊞ 東京都災害拠点病院
⊞ 消防出張所	⊞ 東京都災害拠点連携病院
⊞ 身近な広場	⊞ 緊急医療救護所
⊞ 公園	⊞ 一時滞在施設
⊞ 緑地	⊞ 指定支援ステーション
	⊞ 帰宅困難者支援施設
	⊞ ボランティアマッチングセンター
	■ 輸送拠点等

出典

世田谷区土砂災害ハザードマップ 令和元年9月

世田谷区の町丁別人口と世帯数 令和2年4月1日現在

町丁別屋間人口(推計) 平成27年国勢調査 東京都 平成27年10月

平成28年度土地利用現況調査データ 平成29年3月

首都直下地震等による東京の被害想定報告書 東京都防災会議 平成24年4月18日公表

世田谷区洪水・内水氾濫ハザードマップ 令和2年9月

世田谷区防災マップデータ 令和2年2月

## 2 各団体の防災活動～現在の取組状況～

団体名	防災に関する会議			防災活動、資機材配備等の実施				消火資機材の配備									
	防災担当者数	実施している	実施していない	会議名	(実施回数 (年間回数))	実施している	実施していない	配備している	配備していない	スタンドパイプ		D型ポンプ		消火器		その他	
										数量	場所	数量	場所	数量	場所	名称	場所
松原1丁目町会	2	○		役員会	11	○		○		5	町会事務所、松原1-5、松原1-16、松原1-21、松原1-42	1	松原つみき公園	4	町会事務所		
松原2丁目町会	1	○		役員会(要援護者等について)	5~6	○		○				3	松原まちづくりセンター、松原公園、町会事務所	1	町会事務所		
松原三・四丁目自治会	3	○		松原三・四丁目自治会防災部会	2	○		○		2	自治会館	1	弁天児童遊園	2	自治会館		
松原5・6丁目自治会	4	○		避難所運営訓練・防災講座打合せ	5~6	○		○		4	自治会館(2)、松原6-36私道、赤羽公園防災倉庫	1	自治会館	3	自治会館		

団体名	防災訓練等の実施								防災マップ												
	実施している	実施していない	防災訓練		救命救急講習会		その他		作成済	作成中	作成検討中	作成予定なし	掲載情報							その他	
			回数	実施場所	回数	実施場所	訓練名称	実施場所					一時集合所	広域避難場所	避難所	街路消火器	防火水槽	震災用井戸	消火栓		
松原1丁目町会	○		3	松原つみき公園、松原1-5、松原小学校	1	町会事務所						(松原まちづくりセンターのマップを使用)	○	○	○	○	○	○			給水拠点、防災無線塔、防災資機材庫、消防ポンプ倉庫、AED、スタンドパイプ
松原2丁目町会	○		2	松原小学校、松原2-2								(松原まちづくりセンターのマップを使用)	○	○	○	○	○	○			給水拠点、防災無線塔、防災資機材庫、消防ポンプ倉庫、AED、スタンドパイプ
松原三・四丁目自治会	○		3	松沢小学校、弁天児童遊園	3	北沢タウンホール、松原まちづくりセンター						(松原まちづくりセンターのマップを使用)	○	○	○	○	○	○			給水拠点、防災無線塔、防災資機材庫、消防ポンプ倉庫、AED、スタンドパイプ
松原5・6丁目自治会	○		4	梅丘中学校、自治会館、羽根木公園プレーパーク	1	自治会館	スタンドパイプ放水訓練	松原6-36私道、赤羽根公園				(松原まちづくりセンターのマップを使用)	○	○	○	○	○	○			給水拠点、防災無線塔、防災資機材庫、消防ポンプ倉庫、AED、スタンドパイプ

団体名	防災士等の数					災害時連携・協定 (区を除く)		避難行動要 支援者協定			避難行動要支援者対策				連絡手段の確保				
	防災士	把握していない	地域防災リーダー	把握していない	他団体との連携	協定締結	特になし	連携先・内容	協定先・内容	締結している	検討中である	予定はない	見守り活動の日頃からの	要支援者体験	その他	特に実施していない	簡易無線	連絡網の作成・整備	その他
松原1丁目町会	1		1		○		事業者と町会長所有重機の借用提供		○			○					○	○	
松原2丁目町会	1		1		○		明大前商店街との連携		○			○	○					○	
松原三・四丁目自治会	3		3		○		赤堤4丁目町会、下高井戸商店街振興組合、松沢小学校		○			○	○					○	
松原5・6丁目自治会	2		0		○		東松原商店街振興組合、松下松友会		○			○	○					○	○

団体名	防災活動に関するマニュアル (避難所運営マニュアルを除く)				救出救助に係る資機材の配備														その他	保管場所			
	策定済み	策定中	検討中	予定なし	名称	配備していない	配備している	リアカー	はしご	脚立	担架	救急セット	ヘルメット	救助工具セット	ポール	スコップ	手おの	のこぎり			ジャッキ	両口ハンマー	ツルハシ
松原1丁目町会				○		○	1	1		2	1	10		5	3	3	3	1	1			鉄筋カッター1、 チェーンソー1、 なた1、車椅子3	町会事務所
松原2丁目町会				○		○			5	1	1	20	1	1	1	1	1		1			防災服	町会事務所の防災倉庫
松原三・四丁目自治会		○				○	1	3	2		1	20	1										自治会館
松原5・6丁目自治会				○		○	1		1	1	2	35	1									アルミ製車椅子1 台、デジタル無線 機2台	自治会館防災倉庫、赤羽 根公園防災倉庫

団体名	食糧等の備蓄													その他の防災活動				
	備蓄していない	備蓄している	アルファ米	ビスケット・乾パン	おかゆ	飲料水	缶詰類	レトルト食品類	カセットコンロ	災害用食料 その他	非常用トイレ	照明	発電機		給水タンク	その他	保管場所	備蓄品配布先
松原1丁目町会		○	300	40		50			1		5				灯油バーナー 1	町会事務所		炊き出し訓練(年1回)
松原2丁目町会		○		60		60	60	60								町会事務所の防災倉庫		
松原三・四丁目自治会		○	100	100	100	50	50	100	1		1	100		3		自治会館		・防犯カメラの設置 ・パトロールカー(1台)での巡回
松原5・6丁目自治会		○		24		60					40			1	組立式簡易トイレ(赤羽根公園防災倉庫)、カセットガスボンベ	自治会館内防災倉庫、赤羽根公園防災倉庫	訓練参加区民など	問4の防災訓練に含めているが、独自の防災講座を開催している。

### 3 松原地区の課題と今後の取り組み

#### 課題1 住民の安否確認

##### ■課題に対する意見

- ・安否確認の方法が確立されておらず、安否確認の体制も整っていない。
- ・住民の約半数が町会に未加入なので、住民の情報が少ない。
- ・緊急時に使用する町会内の連絡網はあるが、機能していない。
- ・隣近所で安否確認を行うということを確認できればよいと思う。

##### ■地区としての今後の取り組みの方向性

- ・町会・自治会ごとに担当者や役割を決めて、安否確認の体制を作る。
- ・担当者ごとに収集した情報を、集約できるような用紙の作成や場所の確保についても検討していく。

##### ■各団体の今後の取り組みの方向性

- ・会長、副会長、民生委員、地区理事が安否確認をして情報を集める。(1丁目)
- ・災害時の役割を分担した組織図を作成する。(1丁目)
- ・ノート等を使用して、被害情報の報告書を作成しておく。(1丁目)
- ・避難所での安否確認を円滑に行うために、同じ避難所が指定されている松原1丁目町会と分けて安否確認が出来るようにしておく。また、安否確認が出来た避難者に、ケガや病気の有無を記入したシールを貼ってもらう。(2丁目)
- ・住んでいる番地ごとにブロックを作り、その中の班長に安否情報を報告するという仕組みを確立していく。(三・四丁目)

#### 課題2 避難行動要支援者支援(旧災害時要援護者支援)

##### ■課題に対する意見

- ・避難行動要支援者支援制度の認知度が低いため、防災訓練等で周知を行っているが、防災訓練に参加する人が少ない。
- ・自治会役員と民生委員の組み合わせで要支援者の訪問を行っている。
- ・要支援者の約3分の2は、同居人がいる。
- ・名簿記載者以外にも、支援が必要な人を含めた町会独自の名簿を作成している。(1丁目)
- ・高齢者1人暮らし、高齢者同居人有り等の区分をして把握している。(1丁目)
- ・チラシのポスティング後に、訪問している。(三・四丁目)
- ・民生委員と自治会役員が2人1組で訪問している。事前に会長の名前で手紙を送り、訪問の際に名刺の提示や5・6丁目のベスト着用などで役職を証明している。年2回行っている。(5・6丁目)

### ■地区としての今後の取り組みの方向性

- ・防災訓練等で避難行動要支援者支援制度について周知をしていく。
- ・災害時に安否確認を行う担当を組織化しておく。

### ■各団体の今後の取り組みの方向性

- ・避難行動要支援者支援制度についての周知をしていく。(2丁目)
- ・災害時は、担当者を5人×3グループに組織化して安否確認を行う。(5・6丁目)
- ・要支援者の安全確保については、ヘルパー等の活用も検討する。(5・6丁目)

## 課題3 負傷者等の救出・救護

### ■課題に対する意見

- ・救助するための人員が不足している。
- ・町会内の医療従事者の情報を把握出来ていない。
- ・救護体制が確立していない。
- ・救護用具(当て木や包帯など)は防災倉庫に備蓄している。

### ■地区としての今後の取り組みの方向性

- ・町会・自治会の役員が主体となって、救護活動を行うことを想定しているが、実際はすぐに活動できないことが予想されるので、救護体制について検討していく。
- ・防災倉庫などに救護用具を備蓄しておく。
- ・松原地区には医療救護所に指定された避難所がないので、最寄りの医療救護所(代田小学校や松沢中学校)について周知していく。

### ■各団体の今後の取り組みの方向性

- ・町内の医療従事者リストを作成する。(1丁目)
- ・自宅での備蓄物品リストを作成して回覧で周知する。また、自宅に倒壊等の恐れがない場合は、在宅避難をするように呼びかけていく。(1丁目)
- ・一般の通行人に救護活動の応援を求めるとしているが、どの程度の人数が活動できるのかについて想定が難しいので、今後検討していく。(2丁目)
- ・医療救護所については「松原三・四丁目の最寄り」は松沢中学校」と地域イベント等で周知していく。(三・四丁目)

## 課題4 初期消火

### ■課題に対する意見

- ・消火器やスタンドパイプの使い方がわからない人が多い。
- ・消火器やスタンドパイプ、消火栓の設置場所が把握できていない。
- ・防災訓練等で消火器やスタンドパイプの使い方を周知しているが、防災訓練に参加する人が少ない。

## ■地区としての今後の取り組みの方向性

- ・消火器やスタンドパイプの使い方については、防災訓練等で周知していく。

## ■各団体の今後の取り組みの方向性

- ・火災の原因となる漏電を防ぐために、電気のブレーカーを落としてから避難するように周知していく。(1丁目)
- ・消火器等の設置場所については、防災マップを用いて周知していく。(2丁目)

## 課題5 帰宅困難者対策

### ■課題に対する意見

- ・発災の時間帯によっては、帰宅困難者支援ステーション等に収容できない数の帰宅困難者が避難してくることが予想される。

## ■地区としての今後の取り組みの方向性

- ・帰宅困難者は避難所では受け入れられないので、帰宅困難者支援ステーション(都立光明学園や永福学園、中央ろう学校、松原高校)の役割を周知していく。

## ■各団体の今後の取り組みの方向性

- ・広域避難場所に指定されている羽根木公園には、多くの避難者(帰宅困難者を含む)が避難してくることが想定されるので、備蓄物品を保存しておく倉庫の設置を検討する。(5・6丁目)

## 課題6 他団体との連携

### ■課題に対する意見

- ・私立学校が2校と私立大学が1校あるが、災害時の協力体制は確立していない。

## ■地区としての今後の取り組みの方向性

- ・私立高校・大学が地区の行事に参加しているので、このような接点を活用しながら災害時の協力体制の確立を目指していく。

## 課題7 避難物資の確保

### ■課題に対する意見

- ・避難物資を確保するルートが確立できていない。

## ■地区としての今後の取り組みの方向性

- ・各家庭で物資を確保(備蓄)しておくように周知する。
- ・避難所に入所する際は、飲料水や食料、日用品などを持参するよう住民に周知する。

■各団体の今後の取り組みの方向性

- ・甲州街道からの物資提供を可能にするために、甲州街道沿いに備蓄庫を設置できないか検討していく。(三・四丁目)
- ・商店街等と物資提供の協定締結を検討しているが、協定を締結しても帰宅困難者などが押し寄せると物資の提供が難しいことが想定される。そのため、避難所から商店街にどのような物資が不足しているか情報提供してもらい、その時点で供給できる物資の情報を確認するためのルートを作る。(三・四丁目)

